



独立行政法人国立病院機構
東埼玉病院だより

発行日 令和3年1月
発行人 正田 良介
〒349-0196
埼玉県蓮田市黒浜 4147
電話 048-768-1161
<https://higashisaitama.hosp.go.jp/>



オータムフェスティバル (R2.9.30~R2.10.28 開催)

Contents	当院の新型コロナウイルス感染症対策について 2～3
	画像診断共同利用のご案内 3
	神経内科のご案内 4
	リハビリテーション科～ボツリヌス毒素療法について～ 5
	筋ジス病棟におけるオンライン面会を開始して 6
	「院外処方せん」発行推進へご協力をお願い 7
	地域医療連携室からのお知らせ・外来診療担当医表 8

当院の新型コロナウイルス感染症対策について

昨今の新型コロナウイルス感染症患者の増加に対応して、当院では以下のような対応をしています。

まず、当院では新型コロナウイルス感染症の軽症～中等症患者さんの入院診療を行っていますが、入院患者さんは独立した病棟に入院しており、他の疾患の患者さんが同一病棟にはいません。必要な検査を行うために病棟を出る時も他の患者さんが少なくなった時間を見計らって、標準感染防御策実施のもと行っています。今日まで入院した新型コロナウイルス感染症患者さんから感染が広がったことはありません。

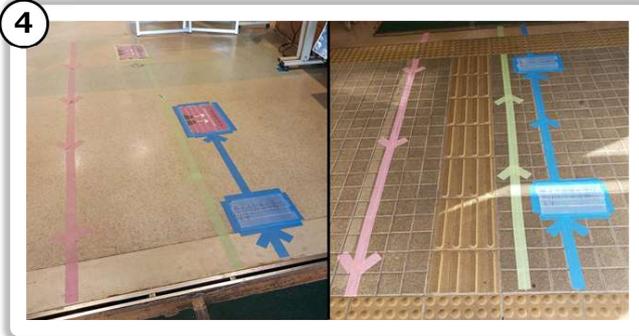
次に、発熱のある外来患者さんへの対応ですが、当院ホームページに発熱のある患者さんへ、（１）必ず予約が必要なこと、（２）必ずマスクを着用すること、（３）受診当日に必ず事前に電話連絡をすることをお願いしています。そして、当院に到着した際には、通常の入入り口ではなく、専用の出入り口からお入りいただき、専用の診察室で診療を行っています。

必要に応じて抗原検査あるいは PCR 検査を実施しています。また、発熱のない当院かかりつけ患者さんに対しては、病院入り口で検温を実施しています。その際に 37.5 度以上の体温の患者さんには、発熱のある外来患者さんと同様の対応をしています。また、外来待合スペースにおいては、椅子の間隔調整、椅子の間に透明ボードの設置、手指消毒用のアルコールの配置等の対策を実施しています。それでも来院することに不安がある患者さんに対しては、電話による診察も実施しています。

最後に新型コロナウイルス感染症以外の入院患者さんへの対応ですが、原則としてご家族による面会や外出・外泊もご遠慮いただいています。当院が「生活の場」となっている筋ジストロフィーや重症心身障害の患者さん・ご家族にはご不便をおかけしていますが、新型コロナウイルス感染対策へのご協力をお願いしています。また、当院では様々な患者さんへのリハビリテーションを行っていますが、外来患者さん（主に筋ジストロフィー）と入院患者さんとは実施時間を分ける、リハビリテーション室内の実施場所を分ける、使用した機器・ベッドの消毒等行っています。また、入院患者さんも必要に応じてベッドサイドで行うなど臨機応変に対応しています。

以上のような新型コロナウイルス感染症対策を実施していますが、感染拡大が続いていますので、今後も気を引き締めて入院・外来診療を行っていきます。

（統括診療部長：大塚 友吉）



- ① 風除室に設置した発熱患者さんへのお願いとアルコール液。
- ② 正面玄関内に設置したサーモ式温度計（一般の方用と車イスご利用の方用と2台設置しています）。
- ③ 外来ホールに設置した飛沫感染予防のためのスクリーン。
- ④ 正面玄関にて対向者との接触を避けるため一方通行にご協力いただいています。

画像診断共同利用CT・MRI・シンチ検査のご案内

検査結果は翌日（土日祝の前日の場合は翌開院日）、画像（CD-R）と診断レポートを発送します。お急ぎの場合は、翌日（土日祝の前日の場合は翌開院日）、診断レポートをFAXにてご連絡いたします。

また、一般的なトンネル型MRIは閉塞感があるため、閉所恐怖症の人や高齢者が苦手とするケースが少なくありません。当院では、周囲に隔てるものがなく窮屈感や圧迫感が軽減され、軽度の閉所恐怖症の人でも検査可能なオープン型MRI（0.3テスラ）を採用しています。

受託実績	
平成30年度	355件
令和1年度	483件
令和2年度	300件（4～12月）

たくさんのご紹介ありがとうございます。



地域医療連携室（医療機関からの問い合わせ窓口）

電話 048-769-1970

FAX 048-769-1971

※ご利用時間 月～金（祝日は除く）8:30～17:15



神経内科のご案内

当科では主に神経筋難病の診療を行っています。対象となる疾患は、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、パーキンソン病などの神経難病や筋ジストロフィーなどの筋疾患になります。神経内科と循環器科のチームで診療しており、常勤医師 8 名(うち神経内科専門医 5 名、循環器専門医 2 名、小児神経専門医 1 名:2021 年 1 月現在)が診療に従事しています。

神経筋難病の診療は、患者さまの日常生活やご希望に配慮するように心掛けています。初期には診断が困難な場合も少なくないですが、MRI、シンチグラフィーなどの検査を行い、最新の知見も参考にしてできるだけ正確な診断とその後の説明を行うようにしています。在宅療養が困難になったプリオン病(クロイツフェルト・ヤコブ病等)患者の療養入院を行っています。筋疾患の診療は小児期から成人期まで継ぎ目のない医療を提供しております。近隣からの成人診療科へ診療移行を希望される筋疾患患者の受け入れも行っております。また、埼玉県難病診療分野別拠点病院(神経・筋疾患)として、埼玉県の神経難病医療の向上にも貢献しています。

筋ジストロフィー病棟は 1970 年の開棟以来、多くの患者さまを受け入れてきました。2006 年 10 月から療養介護病棟として運営しています。主に在宅療養が困難になった方や隣接する蓮田特別支援学校に通学する筋ジストロフィー患者が入院しています。神経内科医、循環器内科医、小児神経科医のチームで診療に当たり、関東一円の患者さまにご利用いただいています。

リハビリテーション専門医を擁し専門的な見地から診療を行うリハビリテーション科、2006 年に開設され在宅医療に精力的に取り組む内科(総合診療科)といった院内各科と密接に連携し診療しています。

神経筋難病患者はいろいろな合併症があることが多いです。当院は総合病院ではありませんので専門的な医療以外の診療は、地域の医療機関と連携して行わせて頂くことがあります。

初診は完全予約制で行っております。ご不明な点や疑問な点がございましたら地域医療連携室までお問合せ下さい。

(神経内科医長:鈴木 幹也)



リハビリテーション科 ～ボツリヌス毒素療法について～

運動麻痺が生じてしまった場合、少しでも機能が回復するように、残存機能を用いて少しでも豊かに生活できるようにしていくことが、我々リハビリテーション科の役割です。

しかし、脳卒中、脊髄損傷、頭部外傷、低酸素脳症など、中枢神経が障害される疾患で運動麻痺が生じた場合、痙縮(筋緊張増加、深部腱反射亢進、クローヌス…)と呼ばれる症状がリハビリの阻害因子となる場合があります。痙縮治療には薬物療法、手術療法、装具療法、物理療法など多面的なアプローチが存在しますが、その中の一つがボツリヌス毒素療法であり、脳卒中ガイドラインでも強く推奨されています。ボツリヌス毒素はあくまでも注入された筋肉の収縮を抑制する薬剤であり、「麻痺が良くなる魔法の薬」ではありません。

しかし、痙縮を改善させることで、残存機能が活用しやすくなる、ADL(歩行や更衣など)が実施しやすくなる、疼痛が改善する、などの効果が得られるケースがあります。

ただし、ボツリヌス毒素の効果は投与後数日で発現し、投与後 4 ヶ月前後で消失してしまいます。そのため、効果発現中にリハビリを並行して実施することが重要とされています。

当科では、

- ① 入院
↓
- ② 評価
↓
- ③ ボツリヌス毒素を投与する筋を選定
↓
- ④ 標的筋にボツリヌス毒素を注射
↓
- ⑤ 2～3 週間程度の入院リハビリ

というリハビリがセットになった治療を行っております。入院期間中、必要に応じて装具の調整やホームプログラムの作成・見直しなども実施しております。「麻痺のある手(足)が、固くて困っている」、「ボツリヌス毒素療法に興味がある」という方は、ぜひ当科外来へお越し下さい。診察の上、治療適応を検討させていただきます。

(リハビリテーション科医師:梶 兼太郎)



ボツリヌス毒素を下肢の筋肉へ注射する様子



リハビリの様子

療養介護病棟(筋ジストロフィー病棟)における テレビ電話によるオンライン面会を開始して

当院療養介護病棟(筋ジストロフィー病棟)では、11月30日より「テレビ電話によるオンライン面会」を開始しました。

今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響より、利用者さん本人はもちろん、ご家族及び成年後見人の方は病棟での面会ができず、「早く会いたい」・「顔が見たい」・「話が見たい」などの声が多く聞かれていました。

そのような状況から当院ではテレビ電話によるオンライン面会の開始ができるよう、筋ジストロフィー会議や療養介護サービス向上委員会において、担当職種(医師、看護師、児童指導員等)で何度も手順やルール、運用について検討を重ねて準備を進めてきました。

検討するのに時間を要したため、ご家族や後見人の方の面会ができない不安が少しでも和らぐように、利用者さんの入院生活の様子を手紙で定期的にお知らせしました。

オンライン面会開始日には、3組のご家族がご利用され、利用者へ「顔色いいね」・「テレビ電話で会えて良かったね」・「久しぶりだね」等の話をしたとのことで、とても好評でした。

11月30～12月15日までのご家族及び成年後見人の方の利用された件数としては、ご家族25組36人、成年後見人の方1名の総計37名で多くの方にご利用いただきました。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行がおさまるまでに時間がかかると思いますので、たくさんの方々へご利用いただけるよう、ご家族及び成年後見人の方へお声かけをしていきたいと思っています。

今後も利用者さんの入院生活がさらに充実したものとなるよう、療育指導室と関係職種で連携を図り、対応していきたいと考えております。

(療育指導室長:笠井 一博)



「院外処方せん」発行推進へご協力のお願い

当院へ通院されている患者様におかれましては、以前より「院外処方せん」にて保険調剤薬局（かかりつけ薬局）で調剤をお願いしているところでは、

近年、病院の入院患者様においては、質の高い医療サービスを提供するために病院の多職種で構成する医療チームで治療やケアを提供しております。その中で、薬剤師の役割は「お薬」に関する重要な部分であり、入院患者様が早期に退院し、自宅での療養をより良く過ごせるように努力しております。

当院へ通院されている患者様におきましてはこの事をご理解頂き、ご自身の「お薬」は「院外処方せん」にて保険調剤薬局（かかりつけ薬局）での受け取りにご協力をお願い致します。

保険調剤薬局（かかりつけ薬局）での受け取りの良い点は、当院以外の病院やクリニックなどで処方されているご自身の「お薬」の状況を管理できるところにあります。いつも飲んでいいるサプリメントや「お薬」の飲み合わせ、副作用などもチェックしてもらえるので体調の変化もすぐに相談できます。また災害時の場合でも、かかりつけ薬局があると「お薬」の相談がスムーズです。ご自宅・職場近くの保険調剤薬局を見つけて、外来通院においてもより良い質の高い医療が受けられるようにしましょう。

「お薬」はご自身が健康に生活するための大事なパートナーです。生涯、飲み続けなければいけない「お薬」もあります。また飲み慣れている「お薬」が毒になることもあります。ぜひ、相談できる、かかりつけ薬局を持ちましょう。

（薬剤部長：澤田 大介）

～お薬を受け取るまでの流れ～



① 診察後、受付にて「院外処方せん」を受け取ってください

② 保険薬局に「院外処方せん」を渡し、お薬を受け取ってください

地域医療連携室からのお知らせ

1月25日から地域医療連携室の場所が変わります。

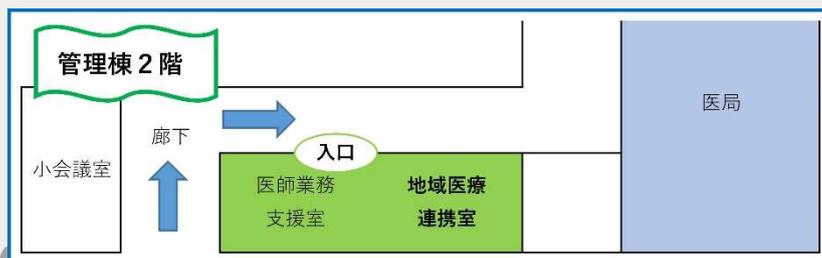
移動場所：管理棟2階

* 電話、FAX 番号は変更ありません。

(TEL048-769-1970 FAX048-769-1971)

* 連携室へご用の際は1階受付へお声かけください。

よろしくお願いいたします。



外来診療担当医表

令和3年1月1日現在

曜日		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
診療科	初診	(担当医)				(担当医)
	再診	高杉 芳賀	堀場 高杉	諸井 矢崎 (午後)	堀場 廣瀬 下田 禁煙外来	廣瀬 矢崎
呼吸器科 (予約)	初診	(担当医)				(担当医)
	再診	尾方	中山	尾方	田村	鈴木(幹)
神経内科 (予約)	初診	(担当医)	(担当医)	(担当医)	(担当医)	(担当医)
	再診	尾方	中山	尾方	田村	鈴木(幹)
内科・ 総合診療科	初診・再診	今永	今永(第2,4週) 鈴木(古)(第1,3週)	今永 (第1,3週)	鈴木(古) (第1,3週)	外山
	再診(予約)				正田 (午前)	太田 (午後)
循環器科 (予約)	初診・再診		重山 (午後)			重山
リハビリ科 (予約)	初診	(担当医)				
	再診			大塚	梶	
リウマチ膠原病科 (予約)	初診	(担当医)				
	再診	中嶋	中嶋	進藤(午後)	中嶋	進藤
歯科・口腔外科 (予約)	初診	海老原	海老原	海老原	海老原	海老原
	再診			石田 (午前)		青山 (午後)
呼吸器外科 (予約)	初診		樽淵(午後)			
	再診					
整形外科 (予約)	初診					
	再診	大塚				
小児リハビリ (予約)	初診					
	再診			須田		須田
小児科・アレルギー科 (予約)	初診					
	再診		村上 (午前、月2回)	村上 (午後)		
小児筋疾患 (予約)	初診					
	再診				加藤 (午後)	
重症心身障害児 遺伝相談外来 (予約)	初診					
	再診					